

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人ゆいまーる福島			
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 5日		～	令和 7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 5日		～	令和 7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 1月 19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別ニーズに寄り添う支援と成長の実感：お子様一人ひとりの特性や課題に合わせた丁寧な支援により、保護者の皆様が具体的な成長や変化を実感されている点が最大の強みです	・成功体験を重視した支援計画：お子様の自己肯定感を育むため、無理のない「スモールステップ」での目標設定と、日々の活動を通じた成功体験の積み重ねを意識的に行っています。	・支援効果の明確なフィードバック：保護者面談の機会を活用し、日々の支援でお子様に見られた具体的な成長の様子や改善点について、より明確な根拠を示しながらフィードバックする仕組みを強化します。
2	・安心できる「心の拠り所」となる環境：お子様が「通所を楽しみにしている」「心の拠り所」と感じられる、心理的安全性が高く安心できる環境が提供できています。	・受容的な雰囲気と柔軟な対応：お子様が心にゆとりがない時でも安心して過ごせるよう、スタッフが受容的な姿勢で接し、個々の気分やペースに合わせた柔軟な受け入れ体制を工夫しています。	・登所時の緊張緩和に向けた一層の配慮：通所時に緊張が見られるお子様に対し、担当スタッフによる丁寧な声掛けや、落ち着ける場所への誘導など、安心して活動に入れるよう個別の受け入れプロセスをさらに徹底します。
3	・多世代交流を通じた社会性の育み：異年齢間交流を通じて、多様な年齢の子どもたちとの関わりを楽しんでおり、社会性を育む機会が提供できています。	・多様な活動プログラムの提供：活動プログラムが固定化しないよう、お子様の興味関心や季節に応じた様々な企画を用意し、多世代交流の機会を自然に取り入れています。	・家庭との連携強化（活動の可視化）：お子様が帰宅後に「今日何したか」を話しやすくなるよう、連絡帳の充実や、保護者アンケートで要望のあった会報・ホームページ等での活動状況の発信を検討・実行します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設環境のバリアフリー化の遅れと個別スペースの不足：事業所の設備について、スロープや手すりの設置などのバリアフリー化が十分になされておらず、また、お子様が一人の落ち着ける空間が不足することがある。	・物理的・コスト的な制約：施設の構造上の問題や改修にかかる費用・スペースの制約により、全面的なバリアフリー化や十分な個別スペースの確保が困難である。	・環境整備の計画的推進：全面改修が困難な場合でも、移動式のパーテーションやポップアップテント等を活用し、一時的に落ち着けるスペースを確保する。可能な範囲でバリアフリー化を検討する。
2	・地域・社会との交流機会の少なさ：放課後児童クラブや地域との交流活動の機会が少なく、お子様が地域社会の中で多様な経験を積み機会が限られている。	・感染症対策と調整の難しさ：感染症対策への配慮や、学校・地域との日程調整の難しさから、交流活動の実施頻度が低下している。	・地域・外部交流の推進：感染状況を考慮しつつ、近隣の学童クラブや地域イベントへの参加機会を計画的に設定する。
3	・非常時対応マニュアルの周知不足：緊急時対応マニュアルや避難訓練の実施について、保護者への周知・説明が不十分な点がある。	・周知徹底の手順の課題：マニュアルの存在は策定しているが、契約時や日常的な場での説明が形式的になるなど、保護者全員への内容の理解促進が徹底できていない。	・マニュアルの周知徹底：緊急時対応マニュアルの内容を分かりやすくまとめ、契約時だけでなく、定期的な面談時や会報等を通じて繰り返し周知・説明し、保護者との共通認識を図る。